

令和7年度 三股町立三股小学校 自己評価・学校関係者評価

学校経営ビジョン：～みんなが まいにち たのしい 学校～ みんなで三股小

＜ 100：期待以上、 75：ほぼ期待通り、 50：やや期待を下回る、 25：改善を要する ＞

項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	手段	結果及び改善策等 ＜ ●は課題や次年度への方策等＞	自己 評価	関係者 評価	学校関係者評価
豊かな心の育成と基本的な生活習慣の確立	■目標 教師と児童、児童同士の信頼関係を育てるとともに、きまりやマナーを守る態度や危険回避能力等を育成する。	1	○ 始業式や終業式などで、学校長が差別やいじめを防止するための人権教育を実施した。生徒指導主事による校内生活指導についての指導を行うとともに、各学期末に校内で模範となる行いをした児童を表彰した。ピア・サポートについては、各学年の特別活動の年間指導計画の中に指導内容を設定し、実践を重ねることができた。児童の気になる言動に対しては、学年学級で素早く対応するとともに、全職員で情報を共有し、組織として早期解決を目指してきた。 ● 「さん」付けの徹底ができていない。丁寧な言葉遣いの指導を継続する必要がある。	77.5	80.0	○ 児童一人ひとりが楽しく生活できるよう努力している姿勢や、幼小連携を見据えた「さん付け」の取り組みが評価できる。また、自己評価で課題を誠実に明記している点も信頼に繋がっている。 ○ 児童の主体性を引き出すため、教師主導ではなく「サポート役」としての関わりや、型どおりの「おりこうさん」の打破を求めている。
	■手段 ① 差別やいじめを許さない人権教育や命を大切に する教育の推進、道徳教育の充実による豊かな心の育成（ピア・サポートの継続、丁寧な言葉遣いの指導、さん付け呼びの徹底等）	2	○ 児童への学校生活アンケートを実施した後に教育相談を行うことで、学級担任や関係職員が児童の日常の悩みや困っていることなどを把握し、諸問題への解決を図ることができた。定期的に、全職員で児童への適切な支援・指導方針について協議し、共通理解を図っている。 ● 児童の置かれている状況について共通認識し、児童の様子を中長期的に見届けていく必要がある。諸問題の解決まで寄り添う指導・支援の在り方を検討していく必要がある。			
	② 教育相談の計画的な実施と情報共有による児童理解、諸問題への組織的な早期対応	3	○ 各学年・学級での繰り返しの指導や集会・校内放送での呼びかけにより、履物をそろえることや安全な廊下歩行が少しずつ身に付いてきた。清掃指導、朝のボランティア活動、委員会活動を積極的に行えた。学年・学級での教室環境の整備に努めてきた。 ● 朝の挨拶に元気がない。挨拶・会釈、廊下歩行、校内での安全な過ごし方の指導を継続していく必要がある。			
	③ 積極的な生徒指導の実施と基本的な生活習慣の指導の徹底（挨拶や会釈・廊下歩行・履物揃え）、「みまたの日」の充実（三股町児童生徒憲章朗読 等）	4	○ 道徳の時間や学級活動、総合的な学習の時間、非行防止教室などの中で、情報モラルについて学ばせることができた。			
	④ 情報モラルの実態把握とモラル教育の計画的な実施	5	○ 学年研修等で授業づくりや通級指導の在り方について共通理解を図ることができた。児童それぞれが感じる苦手な部分を少しずつ減らしていく方向で指導を継続したい。 ● 支援学級と交流学級の情報共有が必要である。年度初めなどに、特別支援学級についての通常学級児童への説明が必要である。			
	⑤ 特別支援教育の理解とインクルーシブ教育環境の整備	6	○ SCを活用し、児童・保護者・教職員の相談に対応することができた。 ● まず学年で共有し、管理職へ報告。その後、各担当が窓口になって関係機関に連絡するという流れを再度共通理解し、対応していく必要がある。			
学力向上と指導方法の工夫改善	■目標 「進んで自分の考えを表現できる児童の育成」～NINOを活用した児童理解と授業の工夫・改善を通して～	1	○ 「ひなたの学び」（子ども④とりひとりが問いをもち④かまとなって学び合い④かめよう深く考える力）を意識した授業実践および授業改善に校内研究で取り組んでいる。互いの授業を参観することで、同じ学年の職員を中心に子どもの姿を通して子どもが主体となる授業についての共通理解が深まりつつある。 ● 子どもたちが主体となり、課題に対してその場で質問したり気付いたことについて伝え合ったりする力を身に付けられるような授業改善がより一層必要である。この力は、子どもたちが社会に出てからも求められる大事な力である。そのためには、それぞれの学級の子どもの実態を理解し一人一人の職員が十分な授業の準備、教材研究（どんな内容をどのように指導するか）を試行錯誤しながら進める必要がある。次年度は、年度当初に校内でモデルとなる授業を多くの職員で参観し、一人一人の職員が普段の授業で教材研究を重ねることで指導力を高め、児童が主体となる授業がどの学級でも実施できるようにしたい。	72.5	80.6	○ 指導成果が授業でのタブレット活用や、全国学力・学習状況調査の結果に認められる。 ○ 読書習慣の定着や、教室内環境（掲示物等）の整備による児童への刺激を減らす努力を今後も期待する。 ○ 端末をあくまで理解を深める手段として使いこなすことや、家庭学習での積極的な活用を進めていただきたい。
	① 4＋4のチェックポイント とひなたの学びを意識した分かる授業作りと習熟時間の確保	2	○ CRTテスト、全国学力学習調査、NINO等の結果やその分析により、学級の実態を職員が客観的に把握し、どのように授業を改善することが子どもたちの力を伸ばすことにつながりやすいのかについて互いの考えを交流したり指導上の課題について議論できた。 ● 客観的なデータをもとに、定期的にどれくらい子どもが変容しているかを把握し、指導改善をくり返すことでCRTテストや全国学力学習調査で全国平均値を超えることを目標としたい。			
	② 各種学力調査及びNINO等の分析と授業改善への活用（考えるタイムの計画的実施）	3	○ 状況に応じて職員がICTを有効に活用することにより、中学年以上の児童の多くが抵抗感無く文字入力をする姿が見られるようになってきた。 ● 今後 CBT（紙面ではなくパソコンやタブレットで受験する）テストでも、子どもたちが持っている力を発揮できるように、タブレットを家庭に持ち帰り、学校でも活用している学習アプリなどが使えるように家庭での動作確認を進める。			
	③ 学びに向かう力の育成とICTの有効活用	4	● 各家庭によって学習の見届けの差も大きく、宿題の量や出し方についても子ども一人一人に合ったものを出し、学校で指導をすることも難しくなっている。今後、宿題の内容については、授業だけではできない反復学習が必要な漢字の書き取りや計算、ドリル学習や自主的な学習など検討し、精選していく必要がある。			
	④ 家庭学習の見届けの徹底と家庭との連携による習慣化	5	○ 図書委員会の子どもたちが様々なイベントを企画し、図書室に足を運ぶ工夫をしているだけでなく、学級で図書室を利用したり読み聞かせの時間を設定したりすることによって図書に触れる機会を作ることができている。 ● 積極的に幅広い分類の読書をする子どもとそうでない子どもの二極化が固定しつつある。			
	⑤ 図書室の活用と読書活動の習慣化（発達段階に応じた読書）					

体力向上と健康の保持増進	■目標 進んで運動に親しみ健康な生活を営む技能や態度の向上を図る。 ■手段 ① スクールスポーツプラン(SSP)に基づいた体育指導の充実(サーキットトレーニング等の位置づけ) ② 体育行事の充実及び日常的な外遊びの奨励、感染症や熱中症予防、立腰指導 ③ 栄養教諭と連携した「食」に関する指導の充実 ④ 諸検査の結果を生かしたきめ保健指導の充実と健康的な生活習慣の育成	1	● スクールスポーツプランについて年度当初の確認が十分にできていなかった。課題を含めて共通理解する。 ● サーキットの浸透が十分でなかったため、次年度は、掲示資料作成も含め、定着を図れるよう努める。 ● 運動量確保のため、学年体育・学級体育の割合を十分に検討する。	77.5	77.5	○ フッ化物洗口の導入による効果や、スポーツフェスタでの児童の活発な姿が評価される。 ○ 外遊びの充実や、遊びの質の変化(スマホ・ゲーム機の普及)に対応した体育指導の工夫が求められる。 ○ 食物アレルギー対応について、教職員全体での共通理解と事故防止の徹底を今後もお願いしたい。
		2	● スポーツテストの結果、外遊びの割合が低いことが分かった。スクールスポーツプランでは週に2回は外遊びを推奨しているため、次年度はその実践を呼び掛ける。 ● スポーツフェスタの在り方については、今後検討していく。			
		3	○ 栄養教諭と連携・役割分担をしながら、充実した食育授業ができた。 ○ 毎月19日の食育の日は、給食委員会児童が給食時間に食事のマナーについて計画的に伝えることができた。			
		4	○ 「歯」の治療率向上について「保健便り」などで呼びかけたり、個別にプリントを配付したりした。フッ化物洗口も始まったので、次年度は「歯の健康」を重点的に働きかけていきたい。 ○ 今年度は、比較的視力がよい傾向にあった。しかし、昨今のメディア機器の普及等は視力低下の要因となりうる。SSPの課題にあわせて、外遊びを推奨することで、近視の予防に繋げていきたい。 ● 諸検査の結果を踏まえた保健指導が不十分であった。次年度は、結果を踏まえてより一層指導に励みたい。			

開かれた学校づくり	■目標 学校・家庭・地域・関係機関等との連携を推進し、協力し合える関係づくりに努め、地域の中の学校としての信頼を確立する。 ■手段 ① 将来の地域を担う人材を育むふるさと教育・キャリア教育の推進(三股好きな子の育成) ② 家庭や地域等との連携・協力による効果的な教育活動の実施(PTA、学校運営協議会) ③ 学校からの情報発信(HPの充実、安心メールの活用)と家庭や地域からの情報収集	1	○ 生活科や総合的な学習の時間を中心に三股町の人材や環境を活用した学習を進めることができた。 ○ 「三股町児童生徒憲章」を全校や学級で声を出して読むようにした。低学年用に平仮名表記の掲示物を作成した。 ● 様々な教育活動の中で、三股町のよさを意識して、学習活動を行う。	75.0	84.4	○ 地域とのつながりを大切にしている姿勢や、地元の良さを知る活動を今後も進めていただきたい。 ○ キャリア教育における地域側の積極的な介入や、学校運営協議会を通じた「子どもと地域が一つになれる計画」の実行が期待される。 ○ 多様な家庭環境がある中での連携の難しさを考慮しつつ、地域全体で学校を支える仕組みづくりが必要である。
		2	○ 生活科(町探検)や総合的な学習の時間(様々な職種に触れる、福祉に関する活動、棒踊りなど)、教科等で地域の人材を活用した学習を進めることができた。 ● 活用した内容(人材)について、次年度に確実に引き継ぎできるようにしておく。			
		3	○ 安心・安全メールで各家庭に必要な情報や予定変更を知らせることができた。 ○ 大きな行事を中心にホームページの更新をすることができた。 ● ホームページの更新を各学年でもすすめられるようにしたい。			
教職員の資質向上と働き方改革	■目標 子どもによりよい授業を提供するために、教職員一人一人の資質を向上させるとともに、よりよい職場環境を目指す。 ■手段 ① 現職教育の工夫と充実、OJTの推進 ② キャリアデザインやライフプランに応じた人材育成 ③ コンプライアンスの徹底と働き方改革の推進(研修や声かけによる意識の向上、時間外業務への意識改革:上限時間の目標は月45時間以内に)	1	○ 学校経営ビジョンである「子どもたちが創る授業の創造」のもと、主題研究を中心に授業力向上に努めることができた。また、京都や奈良など「主体的・対話的で深い学び」の先進校の視察を行い、その学びを職員へ広げることでも資質向上を行うことができた。 ● 全職員で「子どもたちが創る授業」に向けて、さらに、研修を深めていく。	77.5	85.0	○ 職員の資質向上に対する意識の高さや、先進地視察など授業力向上への取り組みが評価される。 ○ 先生方の多忙感や負担増を心配する。労働環境の改善やメンタルヘルスへの配慮、事務負担の軽減をお願いしたい。
		2	○ 教職員評価に係るミーティングやフィードバックを通して個々の課題やライフプランに応じたアドバイスをを行った。 ○ PLANTの研修履歴から次年度のキャリアデザインに応じた受講奨励を行うことができた。			
		3	○ 終礼等で県教委発行のコンプライアンス通信を紹介したり、コンプライアンス研修会を行ったりすることでコンプライアンス意識の醸成を図ることができた。 ○ 毎月の勤務状況の確認による声かけにより、時間外勤務が月45時間以内の職員は、82%であった。 ● 18%が月45時間を超えており、さらなる研修の充実や業務改善が必要である。			